

.....
題 言
.....

地下鐵工事始まる

日本にも愈々大正十六年から地下高速鐵道が運轉される事になつた、土木的地下施設では兎角大阪市にさへ遅れてをつた東京が今民間會社によつて地下鐵道のみは先鞭をつける事となつた。

工事の現状は頗る順調に進捗しつゝあるので、其の工事をやつてをる路上を通つても何も氣付かずに居る人が多い、試みに今工事中のあの鐵骨のフレームや、夫を包む鐵筋コンクリートを見よ、實に堅牢、完全なものである。何人も東京の地下工事として初めて完全な心地好さを感じるであらう。

光榮ある職分

東京地下鐵の斯の如き工事に關係する人々は實に利害を離れて光榮ある職分である事を深く感ぜらるゝであらうと思ふ。本號に於て此の文化的大事業が幾分畫報的に纏りのついた事は本誌の欣快とする處である。地下工事狀況の如きは何れも苦心の撮影で容易に得難きものである。會社事業關係の幹部諸君の寫眞を多く列べた事は幾分蛇足であるが、日本最初の地下鐵を深く印象する爲めに特に乞うて掲載したものである。

廣大なる倉庫建築

農林省の米穀貯藏倉庫は建築工事として内外に類例なき特種設計である。斯の如き社會政策的の施設は今後各方面に實現せらるべきもので、技術的にも社會的にも此實例が大なる參考たるものである。

大仕掛の實驗

技術界には手近の問題で研究すべき事、實行すべき事が山積してをる。唯多くの人が實行するの熱力と眞面目さを缺くが故に創造的の發見と應用が足りなかつた。本號發表の白石氏の送電線鐵塔基礎の研究は莫大なる試驗費を投じて得たる結果で、日本としては從來一寸例のない大仕掛のものである。従つて此結論は世界的に權威あるものと思ふ。我國の識者は一切の情實を離れて一日も早く此經濟的様式を採用せん事を希望する。

道路會議とムツソリーニ氏

今夏伊太利ミランに開催せらるゝ第五回國際道路會議は、之を司會する人が近代の世界的英雄ムツソリーニ氏である事に於て一偉觀である。ムツソリーニ氏が何事に對しても眞剣なる態度は常に我等の尊敬する處である。異彩ある此の道路會議に出席する日本代表者は牧野土木試驗所長であるから、此機會に於ける最適任者である事を欣びつゝ其行を送るものである。